

ふくい地域

インタビュー ふくい

福井市出身の川崎和男さん(60)は、国内外の主要デザイン賞を最も多く受けている日本を代表するデザイナー。最近では川崎さんが手掛け、米大統領選で共和党副大統領候補となったペイリン氏愛用の眼鏡が話題に。デザイナーの対象はタワシから原子力、人工心臓にまで及ぶという、川崎さんの素顔に迫った。

(西本 円)

「ペイリン氏愛用の眼鏡 随分騒がれたけど、十五歳「カズオカワサキ」フームが話題になりましたから、今更に日本とは違い、アメリカの眼鏡店には検眼師がいて、検眼すれば眼に現れた病気の兆候を指摘します。「カズオカワサキ」フームは医学的知識に基づいて造られているから、アメリカで先に評価されました。大統領選のときは日本で

大阪太大学院教授 デザインディレクター 川崎 和男さん(60)

「いのち」を輝かせる



かわさき・かずお 1949(昭和24)年、福井市生まれ。高志高校、金沢美術工芸大卒業後、東芝に入社。78年、交通事故に遭い、車いす生活に。帰郷し越前打刃物や車いすなどをデザイン。2006年、大阪太大学院教授。現在は大阪大と大阪市内にスタジオを設け活躍している。

「いのち」を輝かすことだと思つた。デザイナーを目指したきっかけは、

最初は小説家になりたかった。小説家には医者が多かったから医学部を志望したけど不合格。浪人中に横尾忠則さんの作品を見て衝撃を受けました。母から「あなたは赤い血を見るよりも赤い絵の具を見る方が似合ってるわ」と言われて、金沢美大に入りました。

「福井に戻ってくるとしたら、何をデザインしたいですか。今、越前市の家具店と

相手の家の夕食時を狙って、竹刀で食卓をたたき壊して帰ってくるような性格。

昔から「けんか師」信条。よく「わがまま」って言われるけど、デザインすることは、自分のわがままを「こんないいもの」にしたい。ドライアイを解消するための眼鏡も考え中です。漆器も革新しもっと日常的な商品もデザインしたいです。

「自分のデザインしたもの」が「わがまま」を動かして

日刊県民福井 2009年3月3日 4面

Kazuo Kawasaki Ph.D.